

令和 7 年度 日置市教育委員会定例会（2 月）

- 日 時：令和 7 年 2 月 20 日（木） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 00 分
- 場 所：日置市中央公民館研修 2・3（3 階）
- 出席者：奥教育長
委 員：内村委員・中島委員・鵜木委員・福田委員
事務局：東（事務局長兼教育総務課長）・中鉢（学校教育課長）
田代（社会教育課長）・内田（東市来支所長教育振興課長）
坂上（日吉支所教育振興課長）・神之門（吹上支所教育振興課長）
宮前（教育総務課長補佐）

1 開会

奥教育長： 日置市教育委員会 2 月の定例会を始めます。

2 前回議事録の承認

奥教育長： 前回 1 月の議事録の承認をお願いいたします。変更や修正等はありませんか。

（特になし）

よろしかったでしょうか。

（異議なし）

それでは、1 月の議事録は承認とさせていただきます。

【前回の議事録承認】

署名・押印は、内村委員と福田委員をお願いいたします。

3 委員及び教育長の報告

奥教育長： 委員及び教育長の報告です。中島委員からお願いいたします。

中島委員： 前回の定例会以降の出席等について、2 件ご報告させていただきます。

2 月 6 日、令和 6 年度第 2 回日置市地域密着型サービス運営協議会に出席させていただきました。こちらの中央公民館 3 階、大会議室で行われました。

内容は「地域密着型サービスの状況」、また「新たな介護サービス提供施設の整備に伴う事業者の選定・審査及び採択」の2点について議事が行われました。

今回、日置地域で事業を展開している医療法人の方から認知症高齢者グループホームの定員1ユニット9名の新設サービスについての事業申し込みがあり、それについての協議になっていました。

申込者は、現在日置地域において通所リハビリテーション、自宅介護支援、認知症高齢者グループホーム、小規模多機能型居宅サービス、訪問看護、認知症対応型通所介護等事業を提供している医療法人ということです。

申込者に、サービス開設事業の応募申し込みについて、現地調査、ヒアリング等を行い、外部委員で構成された日置市地域密着型サービス運営協議会に諮り、審査・意見聴取を行い、市長が事業者を決定するという流れで進むようです。

審査方法の手順は、運営協議会の委員は定員10名ですが、当日は7名が出席し、過半数以上ということで、会が行われていました。審査項目ごとに評価を行い、合計点数が基準点(満点の6割)未満は不採択となります。今回は7名で、700点を満点、6割の420点を基準点として協議・採択を行いましたが、評価点数が大きく上回り、申込事業者は採択となりました。事業内容が市長へ送られるようです。

日置地域においては、事業所が伊集院に移り、大きい事業所だけになっていますが、高齢者が多い中での事業展開ということで、地域の方からの今後の期待もあると、申込事業者からの説明もありました。

2月15日、第72回南九州美術展特別賞授賞式に出席させていただきました。開式で永山市長より「第72回を迎えたこの美術展は、昭和26年に旧伊集院町出身の故門松周一氏が、妙円寺詣りの武徳だけでなく、情操を兼ねた教育を進めていこうということで、同志、同友に呼びかけて美術同好会が結成され、その2年後の昭和28年に総合美術展としてスタートしたのが始まりである」というあいさつがございました。美術の部では2,945点、書道の部では910点の出展があったということです。

審査講評で、美術の部の実行委員会の渦尾委員長から、鹿児島県知事賞を受賞した伊集院小学校2年、野村洸太朗さんの「電車ののってゴー！」という作品について講評がありました。電車が踏切を通過する効果音を並べてあり、細かな描写や、将来駅員になりたいという作者本人の夢が、この絵から伝わってくるのではないかということでした。私は今までの展示会に参加しておりますが、こういった効果音などがあれば、絵から出る内容が伝わることを新たに感じたところです。

書道の部では、永野審査員から書く際の心得として、漢字の「見る」を例として「体が横になった向きが原型となっている。線の1つ1つ、その組み合わせを注視して、線1本1本が何を意味するのかをよく考えてから書くように」という話もありました。その後、各受賞者への授賞が行われております。

幼稚園生の受賞者が小さな体で、大きな賞状と盾を重たそうに持つ姿が印象に残っていますが、ちょうど目の前の授賞が終わって座った子どもが、盾などを見る目が輝いて、すごく嬉しそうな表情を浮かべていたのが心に残りました。

教育長、議長からも話がありましたが、以前この授賞式で受賞されたということで、そういった幼い頃の思い出は年月が経っても心に残るもので、受賞された方々の心に何年経っても、こういうことがあったなど、人生の大きな出来事になる素晴らしい授賞式になったのではないかと思ったところです。以上です。

奥教育長： ありがとうございます。鵜木委員、お願いいたします。

鵜木委員： 報告させていただきます。

1月25日に開催されました県PTA研究委嘱公開兼日置市PTA教育講演会に参加させていただきました。研究テーマは「心豊かでたくましい子どもの育成」で、サブテーマが「ふるさとの良さをつなぎ、地域に思いを馳せながら」となっており、本市が取り組んでいる「ひおき学」と関わるテーマになっていると思いました。

研究公開が始まる前のアトラクションとして、伊作小の伊作ソーラン節とモアナ・ラニのフラダンスが披露されました。司会進行は、東市来中学校PTAの松島フジミさんと伊集院中学校1年生の馬場小春さんが務めました。

開会のあいさつで、県P連の元山副会長が、日頃からのPTA活動協力への感謝とアトラクションへのお礼を述べられ、PTAは児童生徒の健全育成のために活動が行われていることや、コロナ禍で中止になっていた各種研修会が再開されたこと、地域・家庭・学校の連携の大切さ等について語られました。

教育事務所の谷川所長は、教育事務所の役割と業務について説明され、「PTAは社会教育法に則って子どもの幸福と健やかな育成のために活動している。SNSによる誹謗中傷や自然災害が頻発している現状で、何が正しくて何が正しくないのかを見極めなければならない。少子高齢化の進展する中で、子どもが先々を予測できない社会になっている。その中で教師は『主体的対話的な深い学びの実践』のために努力をしている。地域・家庭・学校が連携して、子どもを主体とした取組を進めてほしい。家庭教育は全ての教育の原点であり、子どもを守り育てる環境づくりに努めてほしい」と語られました。

祝辞に立たれた永山市長は「自分には2人の子どもがいて、上の子が4月に1年生になり、自分もPTA会員の1人になる。子どもを育てるということは毎日が悩みの中にあるようなもの。今の世の中は自分の子どもの頃と全く異なる社会になっている」と語られ、ご自身の陸上競技の経験を基に100m走やハードル走の記録の違いを述べられ、昔とレベルの違いを実感しているとして、「刺激を受けて、自分も運動を再開している」と述べられました。そして「社会の変化に向き合うには、勉強を継続していく必要がある」と語られました。

続いて、「日置市あいさつの日」の標語の表彰が行われました。今年は、小学生・中学生から2,846点の応募があり、その中から小学校低学年の部、中学年の部、高学年の部、中学生の部から各1点ずつの計4点が最優秀賞に選ばれ表彰されました。この4つの作品は、配布された研究発表の資料の表紙に掲載されました。これは市の子ども議会で「最優秀賞の標語を共有する場があってもよいのではないか」と提案があったことが実践に移された成果だとのことでした。

続いて3つの単位PTAから活動報告がありました。

鶴丸小PTAは「子どものために何ができるか」をキーワード

に家庭との協力を図り、楽しみを持ちながらPTA活動を行うことができるようにと各専門部の見直しを行ってきたことや、PTA総会の出席率が95パーセントあることなどを紹介し、地域も巻き込んだイベントなどを企画し、成果を上げている状況を報告されました。

花田小PTAは、ウミガメの放流や、もちひっぱれ、親子体力テストなど、地域と連携した取組によって「花田を愛する子ども達の育成」が図られつつあることを報告されました。

東市来中学校PTAは、令和5年度に上市来中学校との統合という新たな転機を迎え、「新生・東市来中学校の創造」をキャッチフレーズに、学校・家庭・地域が一体となった活動として、親子の絆を深める活動や、保護者が鬼やサンタクロース、かぐや姫などに仮装して行う朝の立哨補導、東ちゃん会による門松づくりや緑門づくり、駐車場の整備などを展開してきたことが報告されました。また、家庭教育学級での人権教育や、子どもの進路指導の一助となる高校見学、さらに健康・スポーツに関する学習などの実施状況について報告されました。

それぞれの活動の成果としては、保護者同士や地域住民との絆が深まったことや、地域住民の生きがいに繋がっていることが挙げられました。

課題としては「活動のゴールが見えないために不安感や負担感があること」や、「一人で何でもしようとせず、自分にはこれしかできないと考え、他の人に頼ることをためらわない」とか、「1人に任せずに皆で一步を踏み出すことが大事である」などが挙げられました。

続いて「あさひと生きる～命の奇跡の物語～」と題して、フリーアナウンサーの柳佐知氏が講演をされました。

演者は子宮頸がんになり、子宮の摘出を選択肢として提示されながら、1パーセントの望みに託して手術を行い、不妊治療を経てお腹に新しい命を授かったものの、妊娠6ヶ月目に破水をして無事に出産することができず、その子に「あさひ」と名付けて見送った経緯などを語られました。内容につきましては長くなりますので割愛させていただきます。

閉会のあいさつで、奥教育長が「柳さんの講演は心に沁みた。

命の大切さ、かけがえのない親と子の繋がりを感じた。大きな悲しさから一歩ずつ前に進んでいく強さを感じたお話だった」と講演の感想を述べられ、「PTA活動は、親と教師が手を結んで、子どものためにと考えがちだが、子どものためだけではなく、自分のために何ができるかを探ることだと思う。発表者が楽しく発表している姿が印象的だった。誰一人取り残さないPTAの在り方を模索してほしい」と語られました。そして、関係者へのお礼を述べられ、「地域のために、自分のために頑張してほしい」と結ばれました。

31日は、令和6年度部活動地域移行検討委員会が開催され出席しました。これまでは部活動在り方検討委員会として、委員14名と事務局6名で構成され、「管理職や部活動指導者、さらに保護者や生徒などの部活動に対する意識調査」や、令和6年度から開始するモデル事業についてと、令和8年度から始める地域移行へのスケジュールを中心に協議を重ねてきました。

今後開催される部活動地域移行検討委員会は、事務局6名と市内にある6つの中学校長及びモデル事業の指導者2名、有識者1名の15名で構成されます

会では、令和6年度のモデル事業対象部活動となった連携部活動型のサッカーと合同部活動型の野球の成果について、活動内容の連携や分担ができるようになり、部活動指導者の負担軽減や競技に対する技能向上が図られていることなどが紹介されました。

課題としては、送迎や謝金の負担などに対する保護者の意識改革の必要性や、指導者への謝金の申請が煩雑になっていることなどが挙げられました。関わりのある校長からは、部活動指導者と外部指導者の位置付けがはっきりせずに戸惑う部分があることや、県外遠征を数多く行う部活動があったり、冠大会への参加が既定の回数を上回る部があったりするなど、共通した意識改革の必要性などの意見が出されました。

地域移行に当たっては、今後も予算の確保や保護者の意識改革の必要性など解決すべきハードルが高く、更に検討を重ねながら日置市に最適な在り方を模索していかなければならないと思いました。

2月15日の南九州美術展特別賞授賞式については、先程中島委

員が詳しく説明されたので、私からは割愛いたしますが、その中で私が感心したのは、特別支援学級の児童が、表彰式が行われている1時間30分の間、静かに着席していたことです。集中力を維持するのは大人でも簡単なことではありませんが、立派な態度だったと思いました。以上でございます。

奥教育長： ありがとうございます。福田委員、お願いいたします。

福田委員： 報告させていただきます。

2月1日は、第44回吹上地域女性大会に参加させていただきました。毎年恒例ですが、オープニングは吹上音頭で、各団体の女性部長がご来賓の方々と一緒に吹上音頭を踊るところから始まります。

その後、各女性団体の紹介をさせていただきました。今年は講話に市長に来ていただきまして、日置市の未来、吹上の未来について語っていただきました。大変ありがたかったです。意見交換などもできましたので、来られた方は満足されたのではないかと思います。

2月14日は、日置市高齢者虐待防止ネットワーク協議会に参加させていただきました。議題の「高齢者の虐待の現状と課題」で、総合判断受付件数のみでは令和6年度は過去2年よりも少ない相談件数ではありました。これは家庭や本人・行政・民生委員の方からの相談が多く、内容としては介護保険や高齢者の福祉に関するものが多かったようです。

虐待防止ネットワークということで、実際に高齢者虐待の相談もあり、件数は過去2年よりも多い25件ということでした。行政も見守り体制や訪問による現状把握、相談、協力依頼など細やかな活動やサポートをしておりますが、そういったものが件数として出てくるということでした。

私からは「今現在、仕事や子育てと同時に介護をされる若い世代の介護者は、行政が行う活動に仕事や子育てをしながら参加するのは難しい状況なので、なかなか実情が見えてこない人や、心配事や胸の内を明かすことができない人もいらっしゃるということを知っておいてください」と意見をさせていただきました。

2月15日に、南九州美術展特別賞授賞式に参加させていただきました。中島委員が述べられたので、割愛させていただきます。

が、フロアに素晴らしい書や絵が展示されて、自分にはない素晴らしいものを見せていただき、とても良かったと思います。幼稚園・保育園・子ども園などの絵も、とても素直に絵に気持ちが描かれていて、可愛くて良いなという気持ちになりました。

2月19日、吹上地域校外生活指導連絡協議会に参加させていただきました。吹上地区の各小中高の指導状況などをお聞きすることができました。夜間補導や色々な状況を聞かせていただいて、大きな問題はなかったということでしたが、深夜徘徊や、高校では集団喫煙などもあったと報告を受けました。

春休みに向けての課題として話がありましたが、時代にそぐわないルールも出てきているのではないかとということで、例えばゲームコーナーなどは親同伴でも不可となっていますが、親の管理・責任の下で良いのではないかと話も出ました。そういったルールも、時代に合わせて変えていくべきなのかなと思うところでした。以上です。

奥教育長： ありがとうございます。内村委員、お願いいたします。

内村委員： 報告させていただきます。

2月15日の南九州美術展特別賞授賞式は、中島委員、鶴木委員、福田委員が述べられましたので、私からは割愛いたします。

1月26日は、霧島市隼人運動場がスタート・ゴールの第38回県地区対抗女子駅伝大会が開催されましたので、日置チームの応援に行きました。日置チームは1区の瀬戸口選手が区間2位の好発進でチームに勢いをつけ、3区ではトップになりましたが、その後は強豪の鹿児島・始良に抜かれ、3位のゴールとなりました。最後まで全選手が一丸となって熱走り、素晴らしい成績と感動を与えてくれました。

2月2日は、昼から令和6年度日置地区生涯学習推進大会&いちき串木野市生涯学習大会が、いちき串木野市民文化センターで開催されましたので、参加しました。

オープニングは、串木野小学校読み聞かせグループ「花さき山」さんによる人形劇「桃太郎」の実演でした。おじいさんやおばあさん、桃太郎、キジ、サル、犬の人形が緻密に作られ、人形の動作もナレーションに合わせて、まるで本物のように機敏に動く様に、観衆も劇に引き込まれていました。

開会行事の後は学習成果発表があり、日置市は前結び着物着付け講座の発表、いちき串木野市からはダンスとコーラスの発表があり、日頃の継続した練習の成果を堂々と演じられました。

最後の講演は住吉小糸さんによる、演題「明日に向かってちんとんしゃん」でした。小糸さんはいちき串木野市出身で、高校生で三味線に出会い、現在は住吉社中の代表として「てこしゃんせん」の鹿児島芸者芸文化を継承されており、これまでの22年間の長きにわたる三味線との出会いの話や、修業時代の厳しさの体験談を真剣に話されました。

現在は県内各地で「てこしゃんせん」の教室を開き、三味線・太鼓・踊り・唄を小中高生から大人まで教えておられて、鹿児島の芸者芸の普及に努めながら活躍されています。舞台上で披露された芸者芸の踊りは正にプロの技であり、観衆の目を釘付けにしました。

2月7日は、日吉学園内に建立された本田文庫記念碑除幕式と祝賀会に出席しました。記念碑は学園入口右側に建立されました。登下校時に児童生徒の目に付く場所です。

本田勝彦さんは、2001年度から今年度まで毎年100万円を、旧日吉町時代から日置市の現在まで、総額2,400万円を寄附されてきました。おかげ様で、日吉地域の旧4小学校、1中学校の図書館書籍等の購入に活用され、現在は日吉学園に引き継がれており、多くの本が置かれて「本田文庫」と呼ばれています。

本田さんは除幕式後に、体育館で全校児童生徒にお話をされました。「自分は、幼少から中学3年生の2学期まで、この日吉で過ごし、自然や地域の方々に非常にお世話になりました。その恩返しに、日吉地域の児童生徒のために寄附を始めました。これから皆さんは辛いことがあっても、前向きに頑張ってください」と結ばれました。

その後の祝宴会の最後には、出席者全員が肩を組んで本田氏の大好きな日吉を思う「ふるさと」の歌を声高らかに合唱して閉じました。

2月15日は朝8時30分から、日吉地域子ども会育成会連絡協議会・日吉支所教育振興課主催の日吉地域史跡巡り歩こう会に参加しました。当日は天気恵まれ、日吉学園の児童37人と生徒17

人、幼児5人、保護者25人の80人程が参加しました。

2班に分かれ、それぞれの班がガイドさんの丁寧な案内で、2時間程歩いて川東地区の史跡（若宮神社・田の神・大乘寺跡・八幡神社等）7ヵ所を見学しました。

参加した皆さんは、自分達が住む郷土の史跡や文化を発見することで、地域の良さを知る機会になり、素晴らしい郷土愛が育まれたことでしょう。閉会式後は、参加者全員に子ども食堂さんより無料提供のお弁当があり、美味しいお弁当をもらって喜んで帰りました。

2月16日は、朝から雨模様の天気でしたが、県下一周駅伝の第2区中継地点の準備や、選手の荷物の受け取りなどの手伝いをしました。沿道には雨にも関わらず、多くの駅伝ファンが集まり、選手が襷を必死で受け渡す姿に、大きな声援と拍手が飛び交いました。

県下一周駅伝は、今年72回目を迎えましたが、この様に長く続いてきたのも、選手が1年間継続してきた練習の成果を発揮して走る姿と、そのひたむきに走る姿に感動する沿道の応援が一体となるからでしょう。

中継所の片付けが終わると、日置チームの応援に行きました。日置チームは、各出場選手が全力を出して、前半は次走者に襷を繋いでいましたが、後半は先頭との差が開き、車の渋滞を防ぐために10区間中5区間で繰り上げスタートを強いられ、順位が目まぐるしく変わる展開となりました。

その中で最終区10区の日置市役所の三垣選手が鬼気迫る激走で、前を走る選手を追い抜き、見事に区間新記録を出しました。エース・主将の責任を果たし、明日からの日置チームに夢と希望を与えてくれました。

2月17日は、吹上高校の6年度第3回学校関係者評価委員会に出席しました。開会のあいさつで、瀧校長より「先週一般入試の締切があり、推薦を含めて70人前後になります。7年度に創立100周年を迎えるので、入学者が100名になるように希望しています。3年生の55名が入学から卒業まで1人も欠けることなく、全員の就職・進学が決まり、無事3月3日に卒業式を迎えます。素晴らしい学年でした」と話されました。

脇田教頭より、学力向上対策、教育相談、いじめ対策、進路指導の充実、資格検定、地域連携について取組状況の説明がありました。

次に総務部から「直近5年間の出身中学別生徒数の動向調査によると、伊集院北、加世田、万世中出身者の増加が顕著である。この結果は出前授業や部活顧問の学校訪問が大きい。また、地区別では、令和4年度から6年度にかけて、南さつま市の生徒数増が顕著であり、令和3年度から4年度にかけて、日置市の生徒数減が顕著である」と説明がありました。

進路指導部からは「今年の就職は管内9名、県内18名、県外11名と管内県内就職者が多かった。求人状況は、求人数3,093人で前年度より129人増えている。少子化による人手不足が要因と考えられる。就職しやすい現状に、生徒が進路選択を安易に考えないか心配である」と話されました。私からは以上でございます。

奥教育長： ありがとうございます。

それでは私から、2つお話いたします。

2月11日に東市来で「歌う仲間のコンサート in こけけ」というのがありました。これは市内及びいちき串木野市のコーラスグループを中心に開かれており、それぞれのコーラスグループの個性が表れた、とても良い和やかなコンサートでした。

その中で、昨年亡くなられた水墨画家の芝龍郎先生の水墨画が、遺作展という形で展示されておりました。「芝先生を偲んで」というテーマもあったようで、感慨深い思いで参加させていただきました。

2月15日は史跡巡りで、私は東市来の美山の方に参加しました。200名を超えるたくさんの子ども達や地域の方々の参加があり、美山地区の史跡を回りながら、良い交流ができたと思っています。

これは4つの地域で同時に行われていて、別々の日にできないかという話もありますが、なかなか難しく、私は8年間回っていますが、全部回るには24年くらいかかります。意義ある行事なので、是非、子ども達を含めて続けてほしいと思います。以上で報告を終わります。

4 議事

【議案第7号 日置市スクールバス運行規則の一部改正について】

奥教育長： 議案第7号日置市スクールバス運行規則の一部改正について説明をお願いいたします。

神之門課長： 1ページをお開きください。議案第7号日置市スクールバス運行規則の一部改正についてでございます。提案理由としまして、別表の吹上中学校の項に吹上町下和田自治会を追加するとともに、条文の整理を図るため、規則の一部を改正したいので、日置市教育委員会の行政組織等に関する規則第10条第7号の規定により提案するものでございます。

詳しく説明いたしますと、吹上町下和田自治会について、スクールバス運行の基本となる通学距離において、最短距離ではなく学校長が認めた通学路の距離により算出しましたところ、下和田自治会が通学区域の対象となることが明らかになったため、提案するものでございます。

3ページからの新旧対照表をご覧ください。別表の東市来幼稚園については、令和6年4月1日から飯牟礼幼稚園及び土橋幼稚園を廃止したことにより、通学区域を日置市全域に改めるものでございます。

続いて別表の伊作小学校については、通学区域に変更はございません。旧小学校単位で自治会を記載し、条文を整理しております。

4ページをお開きください。別表の吹上中学校については、先程提案理由で説明しましたとおり、下和田自治会を追加しております。また、旧中学校単位で自治会を記載し、条文を整理しております。

2ページにお戻りください。一番下に附則としまして、この規則は令和7年4月1日から施行するものでございます。以上、ご審議よろしくお願いいたします。

奥教育長： ただ今説明がありました日置市スクールバス運行規則の一部改正につきまして、ご質問はございませんでしょうか。

(特になし)

よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは議案第7号は、原案のとおり議決とさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは議案第7号は、原案のとおり議決いたします。

【議案 第7号 議決】

5 その他

- (1) 事務局長
- (2) 学校教育課長
- (3) 社会教育課長
- (4) 各支所教育振興課長
 - ア 東市来支所教育振興課長
 - イ 日吉支所教育振興課長
 - ウ 吹上支所教育振興課長
- (5) その他

6 閉会

奥教育長： それでは日置市教育委員会2月の定例会を終了いたします。

終了

署名委員 中島辰矢 

署名委員 新木 親志 

